

2021年度上期 関東・中部ブロック会議報告

- (1) 4月28日(水)、関東・中部ブロック会議がzoomを使用したオンライン会議にて開催されました。参加産地は34産地から62名、パルシステム関係者を含めると82名の参加がありました。
- (2) 毛利ブロック長(野菜くらぶ)の進行により開始され、大津代表幹事(無茶々園)より冒頭で開会挨拶がありました。続いて小川副代表幹事・生産者運営委員長(JAつくば市谷田部産直部会)より生消協の2021年度方針の説明があり、「オンライン交流会については、生消協でも機材のサポート体制があるので積極的に対応していこう」と呼びかけられました。
- (3) 次に、パルシステム連合会渋澤専務理事より2020年度実績・2021年度方針と合わせて、ジーピーエスの内部化によるパルシステムの本部体制の変更などについて報告されました。続いて、産直事業本部報告としてパルシステム連合会執行役員の島田産直事業本部長より2020年度実績や、産直事業本部の体制、2021年度4月受注状況、生鮮物流再編変更タスク、2021年1月の降雪被害における秋田・新潟県内産地へのお見舞金の贈呈などについて報告されました。
- (4) 実績報告後、6グループに分かれたグループディスカッションを行いました。テーマとしては、各産地の状況報告、オンラインによる生産者と消費者との交流、生消協2021年度活動、などとし、60分程度の意見交換が各グループともに活発に行われました。
- (5) グループディスカッション終了後、各グループ代表者1名から話し合われたことの共有として報告されました。「関東の北部は凍障害が出ているが、南部では比較的気候もよく作物は順調」「オンライン交流については前向きにとらえている産地が多く、未実施の産地でも対応していきたい旨話されていた」「オンライン交流では普段組合員を案内できない倉庫や圃場などへも紹介できる」「オンライン交流では参加者の反応がつかみ取りづらい」「異常気象の中で安定供給を目指し、コロナ禍に増えた組合員の期待に応えたい」などの報告が寄せられました。
- (6) 消費者幹事からのコメントとして井上幹事(パルシステム神奈川)より、「組合員からは産地交流のニーズが高いので協力をお願いしたい」旨報告され、毛利ブロック長のまとめの後閉会となりました。

